

年頭のごあいさつ

岐阜県林政部

部長 高井 哲郎



明けましておめでとうございます。

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

去年は、開催まで約2年半に迫った東京オリ

ンピック・パラリンピック競技大会への県産材利用を進めるため、2月に設立した『岐阜県「東京オリ・パラ」県産木材利用促進協議会』を中心に、大会関連団体等へ働きかけ、少しずつですがその成果が現れてきました。その一つとして、9月には、物販施設等選手や役員等の生活を支える施設である選手村ビレッジプラザの木材提供者に県と6市町村（関市・中津川市・郡上市・下呂市・白川町・東白川村）が選定され、幸先の良いスタートが切れたと感じております。

また、10月には、これまで農業フェスティバルとともに県庁前芝生広場で開催していた「森と木とのふれあいフェア」を、岐阜メモリアルセンターに場所を移し、新たに「ぎふの木フェスタ」として開催したところ、約2万1千人の来場者を集め大変ご好評をいただき終了することができました。これもひとえに貴会並びに傘下の団体様のご協力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

さて、県では、平成29年度から5年間の森林づくりに関する目標、施策の方向性を定めた「第3期岐阜県森林づくり基本計画」をスタートし、林業活動を重視した「生きた森林づくり」、環境を重視した「恵みの森林づくり」、そして、第3期計画で新たに加わった、望ましい森林の姿に誘導する「100年先の森林づくり」に取り組んでいるところであり、本年もより一層、これらの取り組みに注力する所存でございます。

とりわけ、「生きた森林づくり」におきまして、人口減少時代を見据えた県産材の国内外への需要拡大や、木材流通体制の強化等により、「林業の成長産業化」を進めてまいります。

県内での需要拡大策としましては、公共施設

等の木造化・木質化を支援する「県産材需要拡大等整備事業」「木の香る快適な公共施設等整備事業」の対象施設の拡大や県産材を使用した家づくりを進める「ぎふの木で家づくり支援事業」の補助棟数の増等により引き続き取り組んでまいります。さらに、県有施設の木造化・木質化を進める「県産材利用推進方針」では、平成29年度から5年間で、過去5年間の3割増しに当たる62施設の整備を目標に取り組んでまいります。特に、現在、設計を進めている「岐阜県庁舎」には、可能な限り県産材を利用していくよう、関係部署と調整しているところです。

県外への需要拡大策としては、Woodコレクション（東京都）、木と住まいの大博覧会（名古屋市）等に出展し、大規模消費地に向け東濃松、長良杉、ぎふ性能表示材などのPRを行ったところであり、本年も引き続き実施する予定です。

海外への需要拡大策としては、昨年、韓国の大工技術者に対し木造住宅の施工技術等に関する研修を実施し、日本の伝統的な木造軸組住宅の知識を高めてもらうことができました。本年2月には、韓国最大級の住宅資材展示会に県内企業と連携して出展し、県産材製品をPRすることとしており、今後も、韓国をはじめとするアジア圏における取り組みを強力に進めていきたいと考えております。

また、昨年より、「中津川・白川・東白川地域」で取り組みをはじめた「林業成長産業化地域創出モデル事業」は、ICT等の活用による製品流通の効率化や高性能林業機械・流通加工施設の整備等による木材生産・加工の低コスト化等について、本格的な事業展開を図ってまいります。

こうした取り組みを進めていくためには、貴会並びに傘下の団体の皆様のご協力が不可欠と考えており、今後一層のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

結びになりますが、本年が本県の森林・林業・木材産業の飛躍の年となりますよう祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。